

## くまのしっぽはなぜ短い

むかし、くまのしっぽはとても長かったのですよ。

あるとき、くまは、五日も六日も、何も食べないで寝て ねいました。目がさめたときには、お腹が なかぺこぺこでした。そこで食べものをさがしましたが、まわりには何もありません。くまはこまつて、毎日毎日食べ物をさがして歩きました。

ある日、くまが道にそつて歩いていると、むこうから、ガタガタと荷車がやってきました。見ると、きつねが魚をつんで運んでいました。くまは、「そら、もうけたぞ」と、急いですきのかげにかくれました。そして、荷車が通りすぎてから、そつと荷車の荷台にだいにのぼりました。そして、つんである魚をもしやもしや、もしやもしや、食べはじめました。

きつねは、しばらく行ってから、車があんまり重いのでおり返つてみると、くまが魚をもしやもしや食べています。びっくりして、

「おい、くまさんよ。その魚食われたら、おれの子どもに食わせるものがなくなつてしまふ。返してくれ」といました。くまは、「まあそういうわけ。わしも、長いこと何も食つてないんだ」といました。

きつねは、くまが気のどくになつて、

「じゃあおまえさんに、いいことを教えてあげよう。ここから一里ほど行つた先に、水の張はつた池がある。その氷に小さい穴あなをあけるんだ。それから、しっぽの先にねずみのてんぶらをつけて、穴からおろして待つてると、魚が十匹くらいは食いつくよ。」の魚もそうやつてつったんだよ」と教えてやりました。

くまはよろこんで池に行きました。そして、氷に穴をあけて、しっぽにねずみのてんぶらをつけておろしました。しばらくすると、魚が九ひきもつれました。くまは、うれしくて、もういちどしっぽを穴に入れました。ところがこんどは、待つているうちに、ぐうぐうねむ眠りこんでしました。夜がふけるにつれて、池の氷はどんどんがあつくなつて、ぎつしり張りつめました。

やがて、くまは目をさまして、しっぽをひっぱりましたが、しっぽは池にこおりついでどうしてもぬけません。

「やあ、たいへんだ」

くまは大きわぎして、むりやりしつぽを引っ張りました。そのとたん、しつぽがつけ根からぶつ切り切れてしまいました。

だから、くまのしつぽは短いのだそうです。

おしまい

\* 一里 やく四キロメートル

原話 ..『和泉昔話集』南要編／和泉郷土研究会  
再話 ..村上郁